

## 学生相談室からのおしゃべりタイム

### ～発達障がいって何？～

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学

2014年1月

みなさんは、「発達障がい」という言葉を聞いたことがありますか？

保育所や幼稚園で、“落ち着きがない”“視線が合わない”“こだわりが強い”など、「気になる子ども」が増え、それらの特徴が「発達障がい」として広く知られるようになってきました。

発達障がいは昔からあった障がいですが、認知されるようになったのは最近のことです。そのため、障がいに気づかずに大人になった人もいます。大学生になり、友人関係や勉強、バイト、あるいは就職活動の中で、なんだかうまくいかなかったり、トラブルが起きたことがきっかけで、発達障がいが発見されることもあります。また、社会人でも職場や結婚生活などのトラブルで、気づくケースもあります。

周りの人に「変わった人」「困った人」と誤解されることもありますが、発達障がいは、本人の努力不足でも、親の育て方のせいでもありません。生まれつきの脳機能の発達に関係しています。発達障がいの特徴をその人の特性（個性）だととらえ、本人が工夫したり、周りの人がサポートすることで、困り感を減らすことができます。

困ったことだけではなく、多くのすばらしい長所もあります。例えば、自分の興味や関心のあることには、誰にもまねできないほど夢中になれる人並みはずれた集中力や好奇心があります。誰にも思いつかないような、ひらめきを発揮することもあります。気持ちさが素直で、表裏がなく、下心などを持ちません。ベートーヴェンやモーツァルト、エジソン、アインシュタイン、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ピカソなど多くの偉人や天才も発達障がいを抱えていたといわれています。

発達障がいのあるなしにかかわらず、私たちはそれぞれ長所も短所も持ち合わせています。お互いに理解しあい、短所をおぎない合っていくことができれば、誰もが生きやすい社会になると思います。

まずは、発達障がいの特徴を知ることから始めてみましょう。

次のページに、発達障がいの特徴があります。

自分にあてはまるものはありますか？あなたの生きづらさが何なのか、きづくきっかけになるかもしれません。

\*場の雰囲気を読むのが困難

「空気が読めない」と言われたり、不適切な発言をしたという反応を受ける。

\*話が伝わりにくい

「話が長い」「何を言っているのかわからない」と言われる。話しているうちに、何を話しているかわからなくなることがある。

\*集中しすぎてしまう

何かに夢中になっていると、他の人に声をかけられても耳に入らない。その集中が一晩中でも続いてしまう。

\*あいまいな表現が理解できない

子どもの時から、「あそこ」「それ」「ちゃんと」などの抽象的な表現が理解できなかった。

\*初めての場所や行動にとっても緊張する

場所が変わっただけで緊張してしまい、ふだんしていることもできなくなってしまふ。慣れるのにとっても時間がかかる。急に予定が変更したりすると、どうして良いのかわからなくなってしまう。

\*思ったことをすぐに口にしてしまう

相手が不快に思うことも口にしてしまう。また言葉をそのまま受け入れることが多く、冗談や遠まわしな言い方が理解できない。

\*感覚が敏感である

他の人が聞こえない音にも気付いたり、食べ物の好き嫌いが激しかったりする。

\*忘れることが多い

大事な予定（会議や課題の提出）を忘れたり、書類や教科書など忘れ物が多い。

◎あてはまる項目があるからといって、発達障がいであるということではありません。

発達障がいだと診断されるには、病院での詳しい検査が必要となります。

もし、気になることや困っていることがあれば、学生相談室にお越しくください。

一緒に考えていきましょう。

[rie@ocjc.ac.jp](mailto:rie@ocjc.ac.jp) (カウンセラー 大城りえ)

9 4 6 - 1 7 6 4 (保健室)

[hoken@ocjc.ac.jp](mailto:hoken@ocjc.ac.jp) (保健室)